

その31 野

(平成11年11月1日号—第203号)

J R津田駅から北に進み旧田辺街道のバス道を西に進むと、間もなく野村地域に入ります。「野」がつく町名は、野村北町、野村中町、野村元町、野村南町と春日野1・2丁目があり、これは住居表示されるまでの「大字野」の地区に当たります。地名の由来は、野村が洪積層の交野台地の中心に位置し、「山を持たない平野部の村」であるからとの説もありますが、定かではありません。

市東部の穂谷にある三之宮神社の縁起を記した『穂谷三之宮大明神年表録』^{*1}によると、嘉禄[かろく]2年(1226)に三之宮神社が修復されました。そのとき奉加している村々の中に穂谷村・芝村(尊延寺村)とともに「野村郷」の名が見えます。これが、野村が記録に表れた最初で、すでに鎌倉時代には成立していたことがわかります。



53 春日神社(野村南町)

野村の鎮守社は春日神社で、祭神は春日四神のうちの天兒屋根命[あめのこやねのみこと]です。津田・春日・野の3村とも春日神社を鎮守社とするのは、中世以来東部地域が興福寺[こうふくじ]の勢力下にあったため、春日大社の影響を受けたものと考えられます。野村のもう一つの鎮守社であった法楽寺宮は、明治5年(1872)に春日神社に合祀されました。

野村は、穂谷川の南側に広がる地域ですが、穂谷川の水量が少ないため、かんがい用のため池が多くつくられています。そのうち、文化9年(1812)津田村と野村が共同して「最合池」というため池を築いています。「最合」[もやい]とは、他の人と共同して事を行ったり、物を所有するという意味で、一般名詞がそのまま池名になっています。明治9年(1876)、池は野村が買収し、野村一村の所有となりました。最合の意味が失われてしまった「最合池」は穂谷川に寄り添うようにして、今も満水をたたえて人々に恵みを与えています。

歴史ある野村、今も昔の喜怒哀楽の声が聞こえてきそうなこの地、野村へあなたも一度訪れてみられてはどうか。



54 野村元町

^{*1} この史料は偽文書とする説があり、正しくは三之宮神社修復の初見は正嘉[しょうか]2年(1258)とされる。野村の初見も同様である。